

余笹川をフィールドにした新たな水文化創造活動

余笹川流域連携ネットワーク

1. はじめに

余笹川は栃木県の北部、那須連山の朝日岳（標高1,896m）に源を発し、那珂川に注ぐ幹川流路延長37.2km、流域面積343.5km²の一級河川です。

平成10年8月末の集中豪雨は、那須町において6日間で1,254mm、1時間雨量も最大90mmを記録し、余笹川や黒川などの中小河川が氾濫し、流域に甚大な被害が発生しました。

余笹川流域では人的被害として死者4名、行方不明者2名、負傷者19名に上り、住家の被害は、全壊・流失27戸、半壊19戸、床上浸水174棟、床下浸水163棟に達しました。



橋をのみこむ濁流



未曾有の豪雨



安全な河川に改修



緑豊かな河川

栃木県ではこの未曾有の甚大な被害に対して、「一定災」という制度を余笹川に県内で初めて適用し、那珂川合流点から四ツ川合流点までの16km区間を4か年という短い期間で復旧工事を行いました。

工事終了後の平成15年5月、復旧事業に携わった栃木県、那須塩原市・那須町職員、建設・測量・コンサルタント業者、地元住民等130名（現会員数110名）で「余笹川流域連携ネットワーク」を設立しました。

当会は「明るく・楽しく・永く」をモットーに、一級河川余笹川、黒川の改修後の経年変化に関する調査・研究、及び川に関したイベントの開催や河川愛護活動を通して、「那須水害」の風化防止、会員相互の親睦を深めることを目的としています。

さらに、短期間で改変された河川環境がどのように復元するのかを検証し、今後の「川づくり」の基礎資料とすると共に、地域住民を対象に余笹川をフィールドとした体験活動や環境学習を継続的に行うことにより新たな水文化の創造に努めています。

2. 活動の概要

会の目的を達成するため様々な活動を行っています。柱となる事業は「川の日記念事業」、「河川環境調査」、「よささウォーク」の3事業で会の発足以来14年間にわたり継続して実施してきました。

①川の日記念事業

7月7日の「川の日」を記念し、那須町の幼児、園児、

小学生等を対象とした余笹川とふれあいイベントを通し、身近な川への愛着心や自然環境への興味を深めることを目的として、7月上旬の土曜日に、「余笹川ふれあい公園」にて開催しています。

那須町内の保育園・幼稚園の園児、地元黒田原小学校の児童、地域住民、そして当会会員を含めて毎年約300名が参加しています。

7月7日は「川の日」です。子供たちを対象にした余笹川とふれあいイベントを開催します。マスのつかみ取りや鮎の友釣り体験等楽しいイベントが盛りだくさん！皆さんも楽しいのうさご参加下さい。

川の日制定20周年

川は友だち

第14回

開催日 平成28年 7月2日(土)【小雨決行】
受付9時 開会式9時45分

会場 那須町余笹川ふれあい公園
(那須町スイングドーム隣)

駐車場 那須町文化センター駐車場をご利用ください

参加費 無料(事前申込みはありません)

日 程	内 容	実施時間	参加者対象者	備 考
	ヤマメの放流	10時～10時30分	幼稚園、保育園他	
	マスのつかみ取り(3回)	10時30分～11時30分	同上	芝生広場
	アユの友釣り	10時～11時30分	小中学生 会員	会員が指導します
	投網漁法実演・アユの生態の話	11時30分	小中学生 会員	会員が実演
	川ガキ教室	10時～12時30分	小中学生	リバーレスキュー、カヌー体験
	建設機械体験試乗	10時～12時30分	自由参加	建設業協会
	鮎の塩焼き	12時～	先着200名	
	河川清掃	12時30分	会員	ゴミ拾い

主催 余笹川流域連携ネットワーク
問合せ【福原090-1805-3634黒田090-8726-8318】
那須町、那須町教育委員会、下野新報社、(公社)日本河川協会、
CCIとちぎ、(一社)栃木県建設業協会、建設防衛栃木支部、
(公社)日本技術士会栃木県支部、とちぎの川景協会、
郷土の河川を愛する会 他

水にぬれますのでタオルや着替えをご持参下さい

会場位置図



川の日Tシャツ

【ヤマメ放流】

地元の子供達により、ヤマメの稚魚約400匹が放流され、バケツから放流された稚魚は元気よく清流余笹川に泳いでいきます。子供達は目を輝かせて稚魚の行

方を追っています。放流付近は市街地から近く、公園も隣接しているため、勾配が緩やかな巨石を使用した段状の護岸でできています。このため、雨が降って石が濡れているような状況でも子供達は安心して水際まで近寄ることが可能です。



川の日稚魚放流

【マス等のつかみ取り】

マス等のつかみ取りは園児達が一番楽しみにしているものです。会員が公園の芝生の上にブルーシートと足場板、土のうで仮設プールを作り、余笹川から水中ポンプで川の水をくみ上げます。建設業に携わる会員の手際よい作業により約30分程度でプールは完成します。

ニジマスや鮎は下流的那珂川沿いで養魚場を営する会員から購入しています。活きの良いニジマスを約500匹、鮎20匹を3回に分けてプールに放流しますが、水深をある程度確保しているため、幼い園児達は簡単につかめません。悪戦苦闘しながら水しぶきを上げ、大はしゃぎしながら魚を追いかけています。

また、会員が那珂川産鮎200匹を炭火で塩焼きにして参加者に無料で振る舞っています。



川の日マスつかみ取り

【鮎の友釣り体験】

川遊びのおもしろさを子供達に味わってもらうため、

当会の団体会員「郷土の河川を愛する会：薄井一郎会長」の会員約20人の協力をいただき、鮎の友釣りを体験させるものです。地元の子供達は自然の川の流れる中でオトリをつけた長い釣り竿を会員に支えて貰いながら、友釣り独特の醍醐味を味わっています。

良好な河川環境を後世に引き継いでいくことの必要性を子供達に教えるのは、机上の学習より実際に現場の遊びの中から体験していくことが効果的です。水の流れの強さや足の底で感じる石の感触などは川の中に入って初めて体験できるものです。川ガキがいなくなって久しいといわれていますが、子供の頃から身近な河川で楽しい遊びを体験していくことにより、川や水に対する愛着が自然に身に付いていくものと思っています。

鮎の友釣りや稚魚の放流体験が子供達の幼い頃の記憶として少しでも頭の片隅に残ってもらえれば幸いです。



鮎の友釣り



投網実演

【川ガキ教室】

子供達に川遊びの楽しさを体験してもらうとともに、川の怖さを知るために「川ガキ教室」を開いています。

リバーレスキュー国際資格者の指導の下、ライフジャケットの着用方法、スローロープによる救助方法を学びます。また、公園内の池を使用して貴重な「カヌー体験」を実施しています。



リバーレスキュー教室



川の日カヌー教室

【建設機械体験試乗】

会員には建設関係者が多いため、子供達に建設事業の理解を深めてもらおうと、毎回のイベントに併せて、工事現場で使用するホイールローダーや高所作業車、モーターグレーダーを会場に持ち込み子供達に試乗させています。ヘルメットを被った子供達は普段近くとすることができない大きな機械の運転席に乗って得意げなポーズをとり歓声を上げています。一昔前、建設事業は「きつい・きたない・きけん」の3Kと言われて市民から信頼が失われていました。3.11東日本大震災後このようなイメージは随分払拭されつつありますが、建設業への入職者は依然として少ない状況が続いているようです。汗を流す建設関係に携わる人々がいるからこそ、川や道路が整備され、適正な維持管理がなされ地域の人たちが安全で安心して暮らすことができるのです。建設に関わる大人達が誇りを持って仕事に携わっていることを、子供達が建設機械にふれて少しでも感じてもらえれば幸いです。



建設機械体験試乗

【河川清掃】

河川清掃は地味な活動ですが、当会の重要な行事の一つです。会員が会場周辺を手分けして清掃し、空き缶、ペットボトルなどのゴミを集めます。きれいな川は地域の宝ですので、いつもきれいな川にしていればゴミを捨てる人も徐々に少なくなり、地域の人達も気持ちよく利用でき、河川に対する愛着心も深まってくると確信しています。

②河川環境調査

この調査は那須水害で被災した余笹川等が4年間という短期間で復旧されたため、会員がその後の河川環境の経年変化を調査し、過去のデータと比較し整備の効果について研究することを目的として行っています。

継続してデータを蓄積することが重要であることから、会設立時の平成15年度から8月末の土曜日に定点でのモニタリングを行っています。

調査は、魚類調査班、植生調査班、水質調査班、縦横断測量班の4班に分かれて調査を行います。調査対象箇所は、余笹川3箇所、黒川2箇所、三蔵川1箇所の計6箇所です。



環境調査

【魚類調査】

漁業協同組合から特別採捕の許可を取り、川魚に詳しい会員が投網を使って魚を捕獲します。鮎、ウグイ、カワムツ、タナゴ等多種の魚類が確認され豊かな水環境が維持されています。



魚類調査



投網での魚類調査

【植生調査】

堤防の上から徒歩による目視確認を行い、植生の回復状況を写真とスケッチで記録しています。2016年調査においては地元建設業協会と連携してドローンによる植生の確認を行いました。これまでの堤防からの目視と違って上空からの植生の範囲等が現地のディスプレイに鮮明に映し出され、繁茂の状況が手に取るようにわかりました。



植生調査

【水質調査】

定点において「パックテスト」による簡易水質調査を行っています。調査開始以来ほぼ毎年のデータを確認しましたが、各地点とも概ね良好な水質を保っています。



水質調査

【縦横断測量】

河道の変化を確認するため会員が最新の測量技術で縦横断測量を行っています。調査当初の5年間は河床の低下が確認されましたが、その後は床止工の効果が大きい発揮され河床は安定しているようです。



縦横断測量

③よささウォーク

9月末の日曜日、那須町主催の「那須九尾まつり」に併せて開催しています。よささウォークは河川改修で整備された堤防上を歩き、豊かな自然を満喫すると共に整備後の河川を見てもらうため、平成13年度から始められました。1、2回目は県と町が関与した「官」主導のイベントでありましたが、平成15年度の3回目からは当ネットワークが主催しており、毎年400～500人の老若男女が県内及び関東近県から参加します。

コースは5km、10km、20kmの3コースが設定され、



よささウォーク



初秋のよささウォーク

那須高原の秋風にふれ、稲穂の香りと余笹川の流れに耳を傾けながら、家族や友達と一緒にウォーキングを楽しみませんか。

第14回 よささウォーク2016

川の日制定 20周年

9月25日

受付：8時30分～ スタート：9時(事前申し込みは不要です)

会場 栃木県那須町 余笹川ふれあい公園

コース
 5km 余笹川ふれあい公園→下余笹橋→余笹川ふれあい公園
 10km 余笹川ふれあい公園→森沼公園→余笹川ふれあい公園
 20km 余笹川ふれあい公園→協和橋→余笹川ふれあい公園

参加費 無料(抽選で完歩賞をプレゼント!!)

主催 余笹川流域連携ネットワーク

後援 那須町、那須町教育委員会、下野新聞社、(一社)栃木県建設業協会、建設防衛土木支部、COとちぎ、さいわい川と暮らし基金、那須とちぎ協同組合、(公社)日本技術士会栃木県支部 他

アクセス JR黒田原駅から徒歩15分
東北自動車道 那須ICから車15分

駐車場 九尾まつり臨時駐車場(那須町役場、黒田原小学校、黒田原駅前)
(誘導員の指示に従ってください)
※駐車台数に限りがありますので乗り合わせでお願いします。

問い合わせ 福田 090-8726-8318
稲葉 090-1805-3634
<http://www.geocities.jp/yosasanet/>

会場位置図

那須地域の自然豊かな水辺空間を満喫しながらマイペースで脚力に応じたコースを完歩します。コース途中の那須塩原市赤沼河川公園においては、地元の皆さんが恒例の「赤飯」「牛乳」「ゆでたまご」など350食分を用意して接待をしてくれるため、多くのウォーカーから大変感謝されています。

また、完歩賞としてオリジナルTシャツ、キャップ、マフラータオル等が抽選で当たります。

ウォーキングの後に「九尾まつり」も楽しめるため、口コミにより毎年参加者が増えております。

平成26年に当会が河川管理者である栃木県から河川法に基づく「河川協力団体」の指定を（全国2番目：指定区間）受けました。毎年、よささウォークの開催に先立ち、会員が水たまり箇所には砂利を敷き、堤防補修を行っています。

④各種事業を展開

上記の事業の他、河川環境改善・国際交流・教育普及・地域貢献・上下流交流のため、川を軸とした下記の事業やイベントを実施してきています。

【桜づつみの整備】

平成16年11月、「那須町川をきれいにする基金」を活用し、新幹線下流左岸の河川敷に30本の桜を植樹し「桜づつみ」を整備しました。平成27年度からは毎年剪定も行っています。

【ホタルの里の整備】

平成17年2月「郷土の河川の環境と生態系を愛する会」と連携し下川橋下流左岸の遊水地内においてカワニナを放流するなどホタルが生息可能な「ホタルの里」を整備しました。

【教育ビデオ・DVDの制作】

平成17年7月、川と住民生活との関わり、川の持つ恐ろしさ、河川環境を守る重要性などを紹介した教育ビ



河川敷支柱木伐採



堤防補修



デオ（「平成10年那須水害を乗り越えて」）を栃木県内那珂川流域の全小学校117校に配布しました。

さらに、上記ビデオをDVD化し茨城県的那珂川沿川の小学校25校に配布するとともに中・韓字幕付き版を製作し日本と同様な河川環境である台湾、韓国の関係機関に配布し国際理解を深めました。

【応用生態工学会での発表】

平成21年9月、第13回応用生態工学会において自然環境に配慮した「河川災害復旧後における河道内生物相の経年変化」を発表しました。

【河川環境の向上】

平成22年、平成24年の春秋、河川環境の向上を図るため未利用河川敷に「菜の花」「コスモス」を播種しました。

【河川管理者への提言】

平成25年4月、活動記録を「10年のあゆみ」として取りまとめ、この成果を踏まえ「今後の多自然川づくり」について河川管理者（栃木県河川課）に提言を行いました。



【ボランティア活動】

大災害時には会として積極的にボランティア活動を実施してきました。（中越地震H16年11月長岡市、原発



ボランティア（南相馬市）



避難者支援（鮎の塩焼き提供）



菜の花と桜

避難者支援H23年3月那須町、東日本大震災H23年5月南相馬市）

3. おわりに

今回の受賞はこれまでの活動を支えてくれた会員各位と那須町等関係機関のご協力の賜物でありこの場をお借りいたしまして改めてお礼申し上げます。

今後も余笹川をフィールドとして多くの地域の子供達や高齢者が参加できる楽しいイベントを継続して企画し、水害記憶の風化防止に微力ながら努めて参りたいと思っています。

そのためには、関係団体との連携、会員相互の協力、安定した活動資金の確保、そして、何よりも活動の場となる安全で自然環境豊かな美しい余笹川の保全が必須であると考えています。

余笹川流域連携ネットワーク